

### 持論交えて一般質問

#### 03年 第4回 定例会 日本人の精神文化センター



### 汗として 副委員長 運営 議会

### 論客ぶり遺憾なく発揮

新しい年が明け、つくば市と東京・秋葉原を最速四十五分で結ぶ「つくばエクスプレス」の開業がいよいよ来年秋に迫りました。本県の新しい玄関口となる守谷市で、唯一の県議会議員、小川一成氏は、決意も新たに二〇〇四年の歩みを始めました。

小川氏は三期一年目の昨年、議会運営委員会の副委員長として円滑な議会運営に汗をかき、一方、総務企画委員会と産業活性化調査特別委員会の委員として精力的に議会活動に取り組んできました。特に、昨年十一月二十五日から十五日間の会期で開かれた第四回定例会では、一般質問二日目の十二月一日に三番手で登壇、いわゆるトリとしてこの一年の論戦を締めくくりました。

小川氏と云えば、一昨年二月の守谷市誕生に伴い同市の初代県議として、県政とのパイプ役に徹しており、これまでに農林水産委員長や土木・農林水産・文政治安各副委員長を歴任。今期は議会運営副委員長の要職を任されるなど、着実に地歩を固めつつあり、一般質問にも年一回の割合で登壇しては、核心を突いた持論を展開することでも知られ、本県議会を代表する論客の一人に挙げられています。

### 哲学論争 めぐり 武士道

### 05年度から 民間人校長 登用へ

ついでに言及しました。その上で、「武士道における慈愛、愛情、礼節、名誉、惻（そく）隠の情という人の心を表す『仁』は、統治者としての最高の徳である」として、本県で「仁」を具現化する存在である橋本知事の哲学に迫ったわけです。

この論戦は、時期が武士道をテーマとしたトム・クルーズ主演の米国映画『ラストサムライ』の日米同時公開と重なったこともあって、実にタイムリーだったと言えますが、実際は一昨年暮れ以来、胸に温めていたテーマでした。

①と表裏をなす②の本県の教育理念では、国語教育などをめぐり、川俣勝慶教育長に論戦を挑み、「真の国際人となるのに最も重要なのは、自国の文化、伝統、情緒をきちんと身につけることであり、郷土や祖国への誇りや愛情を抱くこと」などと、国語教育の重要性を声高に訴えたのが注目を集めました。

小川氏は、守谷市国際交流協会を設立し、ラオスなど東南アジア諸国との友好親善に尽力している国際通とあって、これらの指摘には説得力がありました。この日は、この①、②に持ち時間の半分近くを割き、思いを熱く語ったのが特徴となりました。

教育行政への新風として民間人校長の起用を迫った③では、県内の公立学校に民間出身の校長を二〇〇五年度四月から登用する方針を、川俣教育長から引き出し、翌日の新聞各紙に大きく取り上げられました。

昨年十二月の第四回定例会議員の一般質問でトリスを務めた小川氏。「武士道」をめぐる持論の展開が注目を集めました。後方は潮田議長

今回の『県議会報告』では、日本人の精神文化、本県の教育理念、遺伝子組み換え農作物栽培への対応を採録するとともに、4面では、守谷市国際交流協会がラオスの教育関係者二人を県立守谷高校での研修に招聘（しょうへい）した話題と、守谷市の南守谷地区への交番設置が新年度に実現する運びとなったことについて紹介しています。

# 「武士道」通して警鐘

## 現状を憂え格調高く

小川 まず、初めに、日本の精神文化について、本人の精神文化について、知事にお尋ねします。

昨年十一月の産経新聞に、台湾の前総統である李登輝が慶応大学で講演する予定だった幻の講演原稿『日本人の精神』が報道されました。台湾でダムを造った日本人技師の話を用いた日本文学の本が、日本人の精神文化という道徳体系の素晴らしさを日本人に語りかけようとした講演は、残念ながら実現しませんでした。新聞に掲載された幻の講演原稿は、自信を失っている日本人への誠実かつ真摯（し）な激

励のメッセージとして、私の心に大きく響きました。李登輝前総統は、「武士道こそ日本人の精神である。日本人は消滅しつつあるその精神を今こそ取り戻すべきである」と語りかけています。明治三十二年に新渡戸稲造が『武士道』を世に出してから百年。この混迷の時代に、李登輝によって再び武士道が世に問われたという巡り合わせに、運命を感じざるを得ません。

### 日本人の精神文化

橋本知事 哲学とは言えませんが、少し私の考えを述べてみたいと思います。一つには、「おおよけ」、最近では、国や県を指す時に公権力といった形で見えられ、それが多く、自分たちを守るために自分たちがつくったものです。にもかかわらず、いつの間にか、公は悪い権力の象徴のように、国民と対立する存在であるかのように言われるようになってしまいました。危機に際したれが国民を守ってくれるのかと言え、最終的には国です。国や県にも間違ったところもあるでしょうし、批判は必要です。しかし、現在の状況は、国は自分たちのために自分た



桜のもりづくり事業の一環として昨年8月、北浦広葉樹の森で下草刈りが実施され、小川氏も一緒にいい汗を流しました

「名誉のために命を惜しまず」という毅然とした生き方が、日本から消えつつあるように感じられます。武士道は一言で言えば、公に奉じる精神です。公の精神が減る時、国家が減ると言われています。今

### 知事は「仁」を具現化する存在

二つには、礼の根本と言われる謙譲といった考え方が少なく、自分の主張を徹底して貫こうとする強者の論理が横行していることと、都市再生の名のもとに、東京はますます強くなり、かつてのように地方もともに発展しようという考え方が、国の財政危機というこ

とで、国のことしか考えない傾向が近年富みに強くなっています。東京と地方の関係で見ると、都市再生の名のもとに、東京はますます強くなり、かつてのように地方もともに発展しようという考え方が、国の財政危機というこ

### 強者の論理が横行

公は 見直されるべきは謙譲

で、先進国だけでなく、世界全体の繁栄を求めて、人間の鎖が開発途上国の人々によってつくられたこともありました。また、地方自治体と国との関係でも、これまでのように国と地方が痛みを分かち合うのではな

神を、新渡戸稲造が、義勇、仁、礼、誠、名譽、忠義の七つの徳として体系づけ、これこそ日本人の精神と説明したので、世界的なベストセラーとなったこの本は、日本人の精神の素晴らしさを広く世に知らしめました。西洋の騎士道にも通じる武士道を、人類最高の指導理念という人もいます。

「名譽のために命を惜しまず」という毅然とした生き方が、日本から消えつつあるように感じられます。武士道は一言で言えば、公に奉じる精神です。公の精神が減る時、国家が減ると言われています。今

国家のあるべき姿を語り、人とはいかに生きるべきかを率先垂範して見せてくれた政治家や経営者、そして官僚までもが、私腹を肥やすことだけにきゅうきゅうとしてきたという現実が、今日の日本の姿そのものではないでしょうか。

恥の概念と表裏をなし、時として命よりも上位にあって、武士道における慈悲、愛情、礼節、名譽、惻（そく）隠の情という人の心を表す「仁」は、統治者としての最高の徳です。最も勇敢な者は最も心優しい者であり、情愛深い人は思い切ったことをする人である、と『武士道』には記されています。茨城のリーダーたる知事は、

この「仁」を具現化していくべきです。橋本県政の支持率は六〇％と非常に高いが、これは知事に日本人の精神が宿っていること

はもっと厳しいものがあります。リストラや競争の原理が働き過ぎては、福祉や医療など人間の心によって成り立っている面も多分

野などでは、本来必要不可欠な福祉の心が失われがちになってしまいうような気もしています。

また、ご指摘の愛や寛容の心といった意味での「仁」、困っている人、悲しんでいる人を見て同情する「惻隠の心」といった考え方は、強者の論理に傾きがちな現代社会においてこそ必要不可欠なものであり、こういった考えを常に念頭に置きながら、県政運営に努めていきたい。

いずれにしても、学校、家庭、地域が力を合わせ、社会全体で日本の精神文化を次世代に引き継ぐ努力をしていきたい。

# 国語教育の再興必要 国際社会で尊敬される 日本人を…と声高に

小川 次に、本県の教育理念についてです。戦後、日本人は、新しく合理的なもので良いというアメリカ的発想をうのみにし、新しく合理的なものが経済を進展させ、そして、それが進歩であり、善であると信じて疑うこともありませんでした。日本人としての伝統精神や情緒を片っ端から捨て、経済繁栄にまい進したから、当然の結果として物は豊かになりましたが、心は貧しくなりました。今日の日本人は、衣食足りて礼節を知るところか、名を惜しむという名誉さえ忘れ、なぜかくも卑しくなってしまったのでしょうか。

かつて日本には、世界が羨むようなまばゆい人間がいました。幕末から明治にかけて、主に下級武士出身の者たちが欧米に渡航しましたが、彼らの多くは現地の人々の称賛を博したと言われています。彼らは、流ちょうな英語や洗練された西洋マナー、世界史や世界地理の知識さえもそれほど持ち合わせてはいませんでした。日本の古典や中国の漢籍の教養、そして武士道精神に裏打ちされた行動基準や品格を備えており、それが、かの地の人々に感銘を与えたのです。それゆえに、多くの日本人は欧米から尊敬されたのです。

しては、国籍不明人にはなれども、国際人にはなれないと思つたのです。言語を一定期間以上奪われると、民族は滅びると言われています。国語は、民族としての情緒、道徳、文化、伝統の中核であり、日本語は日本人の知的活動の基盤です。

かつて日本語論ブームの火付け役となった『日本語の論理』の著者、外山滋比古氏は、最近の本の中で、「子育てとは言葉を教えることである」と述べています。人間の思考は、言葉で考える以上、自分が持っている語彙(い)の範囲を超えられるものではありません。キレる子供が増えたと言われますが、私に言わせれば、豊かな語彙を持たないがために、言いたいことが伝えられず、結果として行動に訴えてしまうということではないでしょうか。

先ごろ、文化審議会が、小学校の国語の授業を大幅に増やすべきだという報告案をまとめたが、大賛成です。子供たちがこれからの国際社会で強く生き抜くために、国語教育の再興が必要です。総合的な学習の時間に取り入れられることの多いパソコンや英語の授業は、日本語に対する造り込みを深めた上で取り組むべき教育ではないでしょうか。

日本語を学び、古典や詩歌に触れることが、日本の精神文化を理解することであり、その積み重ねが「ものあわれ」という高度な情緒を養うのです。国語教育の充実こそ、真に急ぐべきではないでしょうか。

さらに、日本人の情緒と言え、卒業式にあまり歌われなくなった『仰げば尊し』を思い出します。この歌を聞くと、在りし日の青春が脳裏をよぎり、万感の思いが胸にこみ上げるのを抑えることができません。このように、昔から歌い

に増やすべきだという報告案をまとめたが、大賛成です。子供たちがこれからの国際社会で強く生き抜くために、国語教育の再興が必要です。総合的な学習の時間に取り入れられることの多いパソコンや英語の授業は、日本語に対する造り込みを深めた上で取り組むべき教育ではないでしょうか。

かつて日本には、世界が羨むようなまばゆい人間がいました。幕末から明治にかけて、主に下級武士出身の者たちが欧米に渡航しましたが、彼らの多くは現地の人々の称賛を博したと言われています。彼らは、流ちょうな英語や洗練された西洋マナー、世界史や世界地理の知識さえもそれほど持ち合わせてはいませんでした。日本の古典や中国の漢籍の教養、そして武士道精神に裏打ちされた行動基準や品格を備えており、それが、かの地の人々に感銘を与えたのです。それゆえに、多くの日本人は欧米から尊敬されたのです。

継がれてきた歌は、必ずと言っていいほど、日本人の心のひだに触れるような豊かな感情を呼び覚まします。また、古典や儒教を引用したり、道徳的な意味が込められていることもあります。子供たちは、いつか必ずその歌の意味や教えの深さに気づくはずであり、それが成長するということなのです。

『仰げば尊し』の「身を立て名を上げ」は、少年よ大志を抱けというエールです。教師は「仰げば尊し」と歌われて恥ずかしくないよう、自らを戒め精進するその姿勢が尊敬に値するのです。歌に込められた、教師、友人、学舎に対する感謝の念が年長者を尊敬したり、地域社会を愛する心を育てるのです。

現在県内の小中学校で四割程度しか歌われなくなった『仰げば尊し』を、ぜひ歌っていただきたいと思うのは私だけではないはずです。その点で、『仰げば尊し』は、人としての生きる道の様々な意味が込められた大変素晴らしい唱歌と言われています。この短い歌にもわれわれが必要とする日本人としての心が残されていると考えています。

また、このような日本人としての心を理解し、継承するためには、国語力が重要な役割を果たしています。古典を含めた国語教育を通じて、日本の文化、伝統、自然を愛する心、論理的な思考力、語彙力などを育成する必要があります。今、まさに教育を見直し、新しい時代にふさわしく再構築することが求められています。

私としては、先人が培い、そして継承されてきた、このような素晴らしい価値観や生きる態度など日本人の精神、文化を今後さらに教育の中に生かし、たくましく心豊かな茨城の児童生徒の育成に努めます。

川俣教育長 近年、わが国では、児童生徒の社会の一員としての自覚や規範意識、倫理観、正義感などが低下し、社会や他人を顧みず、専ら自己の利害得失を優先したり、親や年長者に感謝し尊敬する心が希薄になる傾向にあるなど、日本の将来を支える人づくりという面で、大変憂慮すべき状況にあります。

私は、このような問題を解決するためには、もう一度、日本人としての心の教育を見直す必要があると考えています。

## 「心の教育を見直したい」 国語力が重要な役割

このような中、谷和原村で二年続けて遺伝子組み換え大豆の種がまかれ、今年には花が咲くまで栽培されました。一般大豆との交雑を

交雑の連鎖によって一般農作物や雑草への遺伝子汚染につながる大変心配しています。県は、早急に栽培指針を策定し、的確な対応を速やかに取ることを必要と考えますが、今後、どう対応するのか伺います。

## 遺伝子組み換え農作物栽培

小川 次に、遺伝子組み換え農作物栽培への対応についてです。遺伝子組み換え農作物は近年、急速に作付面積が増加し、アメリカやアルゼンチンを中心に海外で生産されていますが、多くの国に輸出されていますが、先進国の消費者の間で、人間の健康に深刻な影響を与えるのではないかと懸念が高まったため、作付面積の伸びも鈍化

しているのが現状です。昨年十二月の国のアンケート調査によると、「安全性の確認が不十分」「予期せぬ影響がある」という理由から、遺伝子組み換え農作物を加工した食品を食べることに不安を感じると答えた人は、実に八割にも上っています。

## 交雑防止で指導方針

国の承認 本県は慎重な対応 国は、早急に栽培指針を策定し、的確な対応を速やかに取ることを必要と考えますが、今後、どう対応するのか伺います。

## 交雑防止で指導方針

中村農林水産部長 県としては、一般栽培の場合、一つに、あらかじめ市町村、JA、近隣耕作者の理解を得る、二つに、交雑防止措置を取るといった県の指導方針を定め、周知徹底します。

国は、早急に栽培指針を策定し、的確な対応を速やかに取ることを必要と考えますが、今後、どう対応するのか伺います。

# 守谷高校で研修中

## ラオスの教育関係者

### 人材育成 目的に 国際交流協会が招聘

世界で最も貧しい開発途上国の一つと言われるラオス人民民主共和国の教育関係者二人が今、守谷市大木の県立守谷高校（古谷勲校長）で学校運営のノウハウや外国語教育などの研修を受けています。守谷市国際交流協会（小川一成会長）が国際協力機構（JICA）を通じて招いたもので、同協会では、こうした教育関係者の研修を三年ほど続け、人材育成を通して国づくりに貢献しようとする意欲的に取り組んでいます。

教育現場で研修を受けているのは、ラオスのルアン

カ月半と短いうえ、受験シーズンや学年末と重なったこともあり、主に英語教育と日本語教育を重点に研修が進められています。

今回のこうした研修は、小川会長らが七年前の一九九七年に、JICAが途上国へ派遣している青年海外協力隊員への支援と、途上国への援助などを目的として「茨城県青年海外協力隊を育てる会」を設立したのがきっかけでした。

育てる会は五年前から、ラオスに息の長い支援をしようと、首都ビエンチャンのJICA事務所の協力を



小川氏と一緒に記念写真に納まるブンコンさん（右隣）とポウファンさん（右端）。左端は結城一高に留学中のラオスの高校生

そのため、同協会が昨年、人材育成の一環として、ODA（政府開発援助）の草の根地域提案型事業に応募したところ、計画案が採用され、JICAの全面的なバックアップのもとで教育関係者二人の招聘が実現したわけだ。

こうした提案の採用について、小川会長は「JICAは昨年十月、独立行政法人として新たなスタートを切りましたが、新生JICAが『市民参加の推進』を重要な柱の一つに据えたことが今回の採用に大きく影響したようです」と話しています。

ブンコンさんら二人はこの間、休日は同協会のメンバーとともに、市民や留学生らとの交流会に参加したり、県内の美術館巡りなどをして過ごしています。来日最初の日曜日となった八日には、同市松前町の北守谷公民館で開かれた同協会の都市交流委員会による「MIFAサロン」に招かれました。

サロンでは、日本文化を学んでもらおうと、江戸時代の一七七三年ごろから流行した遊戯の一つ、「投扇興」と着物の体験が行われました。ブンコンさんら二人は、結城一高に留学中のラオスの高校生二人や、中国、カナダ、ベトナムなどの留学生ら約二十人とともに、男性は羽織、袴、女性は和服に着替え、みやびな遊びを楽しみました。

同協会は一九八九年に設立され、現在会員は約四百五十人を数えます。二〇〇一年十一月にはラオスの高校生十人を同市に招き、市内の学校や農家と交流するなど、ラオスと活発な交流を続けています。

小川会長は「今年度の研修は約二カ月間でしたが、今年九年度については、今年九月から十一月までの九三カ月、今回と同じく二人を受け入れることが内定しています。三年目の二〇〇五年には受け入れ人数を三人に増やし、研修期間も六カ月に拡大するなど、研修の充実を図っていききたい」と話しています。

守谷市国際交流協会の都市交流委員会による「MIFAサロン」で「投扇興」を楽しむブンコンさんら



市民待望の交番はふれあい道路の「けやき台公園入口」交差点の角（写真右側の空き地）に設置されます

# 新年度に交番設置

## 南守谷地区 切実な願いが実る

つくばエクスプレスの二〇〇五年秋の営業開始に伴って、本県の新たな玄関口となる守谷市の南守谷地区に、市民が切望していた交番が新年度に設置されることになりました。

交番が設けられるのは、取手市と水海道市を結ぶふれあい道路に面した「けやき台公園入口」交差点の角です。幹線道路のT字路交差点のわきとあって、目立

つ上に利便性に優れており、申し分のない設置場所と言えるでしょう。

同地区への交番設置は、小川県議が会田市長、大久保議長ら議会関係者らと二〇〇二年六月に、橋本昌知

事と当時の永井和夫県警本部長にそれぞれ市民約二万人の署名簿を添えて要望したのが始まりでした。特に、二万人もの署名が同年五月の大型連休明けか

ら一カ月にも満たない短い期間に集まり、署名運動の盛り上がり話題となったほどですが、いかに市民が日常的に事件・事故の増加に不安を抱きながら生活しているかを証明したものでなりました。

小川県議は要望書の提出以降、委員会や自民党県連政調会などでの審議を通じて、交番新設の実現に努めてきましたが、県財政が極

めて厳しいこともあり、要望即予算化という運びには至りませんでした。

しかし、「安全・安心」が時代のキーワードと言われる中、都市化の進展や不安の増大、小川県議の熱心な働き掛けなどが県や県警本部を動かし、二月十八日に県議会各会派に内示された新年度予算案に事業費が計上されました。

小川県議は「交番設置が新年度県予算案に盛り込まれました。今後は一日も早い開設に努めますが、改めて、署名をいただいた二万人近い市民の皆様のご協力をお礼を述べたいと思います」と話しています。



守谷市国際交流協会の都市交流委員会による「MIFAサロン」で「投扇興」を楽しむブンコンさんら